

【避難誘導支援】

防災行政無線の外国語対応（中・韓・英）

貝塚市都市政策部危機管理課

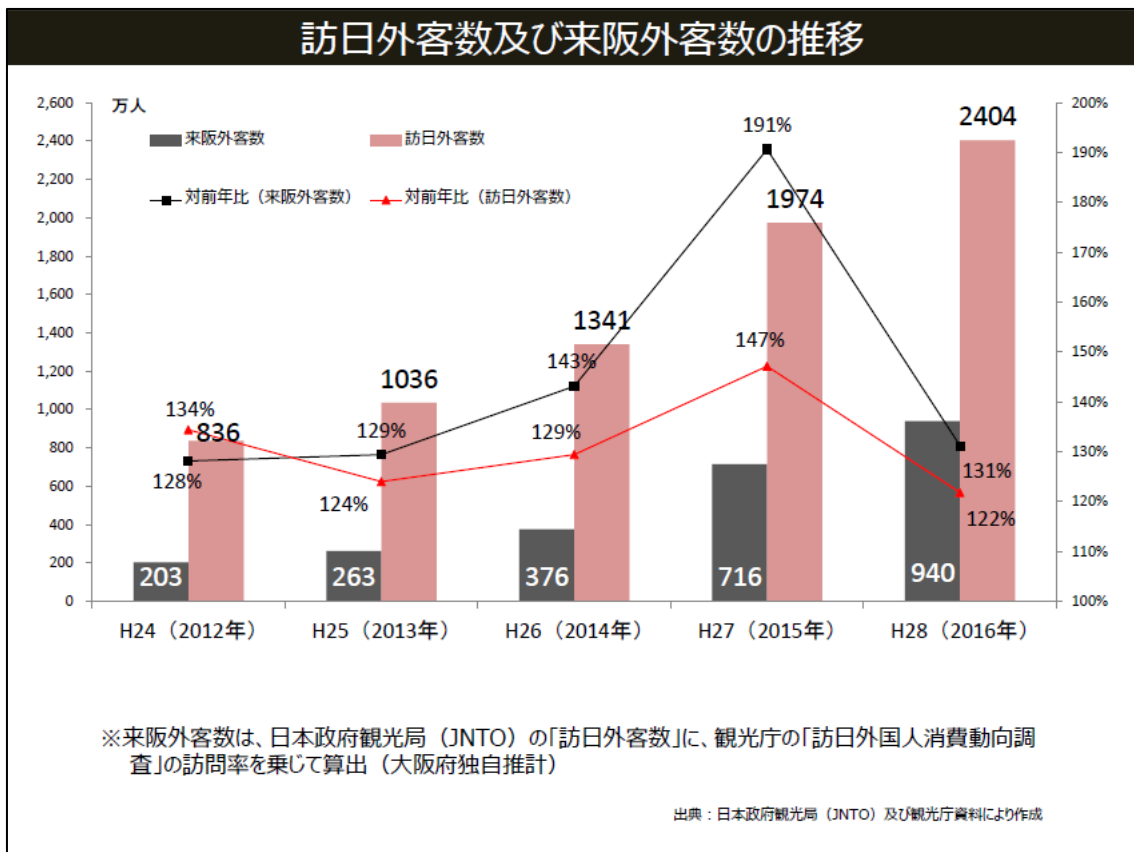
1. 貝塚市の概要

貝塚市は、大阪府の南部にあって、北西部は大阪湾に面し、海岸から山地にかけて南北方向に長い市域形状になっている。そのため、海、平地、丘陵地、山間地と多様な地形を有するだけでなく、大阪府における貴重な自然海浜である二色の浜、ブナ林など自然生態が保全されている和泉葛城山系、市内を縦貫して流れる近木川など、優れた自然環境に恵まれている。そのため、災害リスクは、地震はもちろんのこと、津波や水害、土砂災害などさまざまな災害リスクが存在する。

また、本市の総人口は、平成27年の国勢調査では88,694人で、そのうち、国籍別外国人住民人口（平成28年12月末）は704人570世帯であるものの、大阪府への外国人訪問者数の増加や本市の南側に隣接する泉佐野市対岸には関西国際空港が立地するため、本市においても、外国人の訪問者・滞在者数は年々増加するものと見込まれる。



貝塚市の概要



## 2. 発生が危惧されている南海トラフ地震

高い確率で発生が危惧されている南海トラフ地震だが、貝塚市では、最大震度6弱との想定が発表されており、約90分後に想定最大津波水位 TP3.7m (台風期朔望平均満潮位含む) の津波が沿岸部に到達するとされている。

平成26年に大阪府から発表された津波による最大被害想定では、死者437名・負傷者694名とされており、これを0に近づけるための対応をしてきた。

また、この数字には含まれない外国人訪問者等を含む、来訪者をどのように避難させるのかという課題への対応も必要となる。土地勘がなく、言語が通じない外国人の方々も含めて、発生後すぐに山側へ誘導しなければならない。

そのため、平成29年に実施した貝塚市デジタル防災行政無線整備事業において、情報発信の多重化を最優先としながら、多言語化対応の必要性を検討した。



二色の浜海水浴場

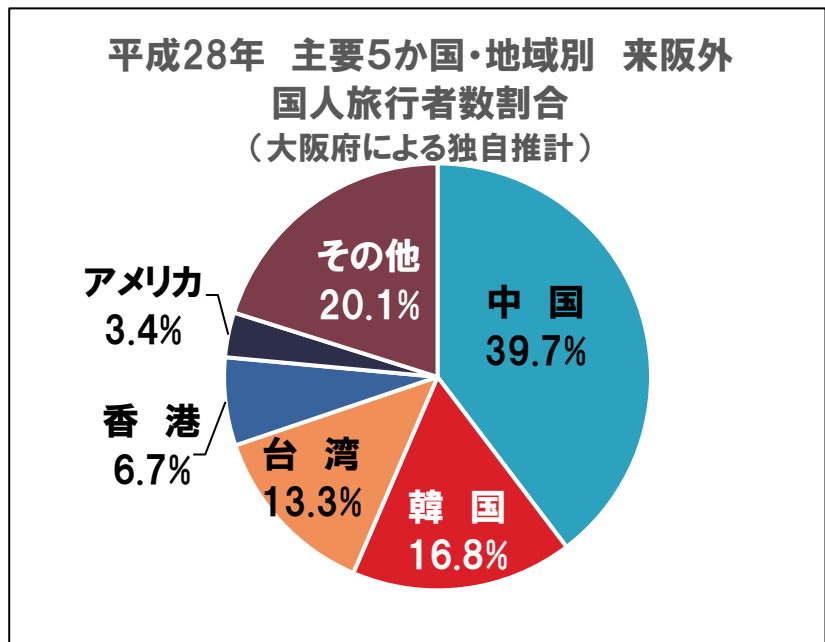
### 3. デジタル防災行政無線の整備における多言語化対応の検討

平成27年度に設計、平成28～29年度に貝塚市防災行政無線デジタル化整備事業を事業実施するにあたり、多言語化への対応を進めた。

平成27年度の設計時には、多言語化対応の議論がされておらず、システムに組み込むには時期を逸したため、単独で音声データを作成し、防災行政無線に取り込む方向で検討を開始した。また、対応言語については、来阪外国人旅行者の主要5か国・地域（中国・韓国・台湾・香港・アメリカ）で約80%にのぼることから、中国語・韓国語・英語に対応することとした。

さまざまな音声合成システムを調査し、株式会社ティファナ・ドットコムから音声合成Webシステム「Rizbell」のサービス提供をいただき、災害発生時における避難情報について、英語・中国語・韓国語の音声データを作成・取り込みすることができた。音声合成Webシステム「Rizbell」に翻訳機能はなかったため、中国語・韓国語・英語が堪能な本市職員に依頼した。

これによって、例えば、津波注意報が発表された際、二色の浜で遊泳中の外国人観光客に対して、「津波注意報が発表されました。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください」という情報を中国語・韓国語・英語で知らせることができるようになった。



### 4. 今後の取り組み

防災行政無線の再整備により、貝塚市の在住全域に情報を届けられるようになったが、外国人訪問客の方々にとってみれば、届いても理解できる内容でなければ意味がない。それに対応する一手を得たことは重要だが、次に検討すべきである多言語化した情報発信の多重化については、エリアメール等の多言語化対応はできていないのが現状である。

今後、多言語化対応された情報の多重化の検討を進めていく必要がある。